

製品名: STAT2 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21125**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:98kD;Observed MW:113kD

抗原情報

遺伝子名	STAT2
別名	STAT2;Signal transducer and activator of transcription 2;p113
遺伝子 ID	6773.0
SwissProt ID	P52630
免疫原	ヒト STAT2 の合成ペプチド

背景

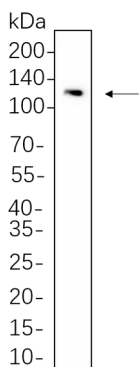
細胞局在: 細胞質、核。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、STAT タンパク質ファミリーのメンバーである。サイトカイ

ンおよび増殖因子に応答して、STATファミリーのメンバーは受容体関連キナーゼによってリン酸化され、その後ホモ二量体またはヘテロ二量体を形成して細胞核に移行し、そこで転写活性化因子として作用する。インターフェロン（IFN）に応答して、このタンパク質はSTAT1 および IFN 調節因子ファミリータンパク質 p48 (ISGF3G) と複合体を形成し、転写活性化因子として作用するが、DNA に直接結合する能力は持たない。転写アダプター P300/CBP (EP300/CREBBP) は、このタンパク質と特異的に相互作用することが示されており、アデノウイルスによる IFN- α 応答の阻害過程に関与していると考えられている。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見出されている。[RefSeq 提供、2010年3月]

研究分野

-

画像データ



Hela 細胞ライセートを 4~20% SDS-PAGE で分離し、膜を STAT2 ウサギモノクローナル抗体 (1:1000) でプロットした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。